

長谷川 霜鳥（はせがわ・そうう）

1、プロフィール

川柳人。小林不浪人の手ほどきで川柳に親しみ川上三太郎の高弟となる。長年教員生活を送り、学童疎開の時学寮で川柳を指導したという。釣りの名人で釣人横綱の称号を持つ。

<生没>

1907(明治 40)年2月 25 日 ~ 1985(昭和 60)年8月 28 日

<代表作>

川柳句集『はみ跡』

<青森との関わり>

黒石町(現黒石市)生まれ。松尾馬奮と三戸川柳吟社、工藤甲吉と尾上わかば吟社創立。また浜町川柳研究会開設。

2、作家解説

黒石町(現黒石市)に生まれる。本名佐藤国男。はじめ佐藤たけ夫と号し、「東奥日報」川柳欄に投句。大正 12 年みちのく吟社5周年大会で川上三太郎に認められ以後師事する。13年時三郎と改号、14年には更に霜鳥と改号。15年4月より三戸小学校勤務、松尾馬奮と三戸川柳吟社創立。昭和2年尾上小学校に転任、みちのく吟社同人となる。4年結婚し長谷川霜鳥となる。5年工藤甲吉と尾上わかば吟社を創立、7年には黒石市浜町の自宅に浜町川柳研究会を開設、新人養成に当たる。

13年に妻の病氣療養で東京に移り、葛飾小学校に勤務する。同年川柳研究社幹事となる。15年紀元 2600 年記念昭和百人一句(宮尾しげを編)に登載される。18年、日本文学報国会俳句部会川柳部門から教科書改訂委員を命ぜられるが、時局厳しいおりから、1回も委員会を持たずに立ち消えになる。19年新潟県高田

市に学童 98 名を引き連れて疎開、その時十七字学寮を作り学童に作句させた。いかにも霜烏らしいエピソードである。

戦後の 21 年、川柳研究社の復活を手伝ったり青年学校で川柳講座を開くなど多忙を極めていたが、一方、趣味の釣りでもその技量が評価され、30 年「釣人横綱」の称号を受ける。そして、42 年 8 月より東京都釣魚連合会機関誌「釣界」の編集を担当、さらに 58 年には都の海上公園審議会や都の公害審議会委員、環境週間実行委員、日本友釣会連盟副会長、東京都釣魚連合会副会長などを務め、著書に『マブナの釣り方』『釣り秘伝集』（共著）等がある。川上三太郎没後、44 年「蒼々亭同窓会」を創立、柳誌「蒼々亭同窓会」を発行する。49 年には川柳人協会員、50 年東都川柳長屋連店子に推され、各種選者を務める。そして 55 年 5 月に葛飾川柳連盟を結成し、毎年会報を発行、58 年に喜寿を迎えその記念に川柳句集『はみ跡』を刊行した。その句風は銜いや小細工がなくおおらかである。

3、資料紹介

○『はみ跡』

図書

1983(昭和 58)年 8 月 25 日

190mm × 135mm

川柳句集。喜寿を記念して刊行。黒石や三戸時代の初学当時より、喜寿に到るまでの句を収める。銜いや小細工が無く川柳の本質を捉えた句風である。趣味の釣りについての句も多い。随筆「小さな生命への川柳」「新しい発足」の 2 編を収録する。